

第 61 回研究発表会 若手優秀発表賞 受賞者

第 61 回研究発表会および現地見学会実行委員会
事業計画部

福岡大会において研究発表を行った若手発表者(申込時の年齢が満 35 歳以下)の中から、以下の方々を優秀発表者として表彰することといたしました。受賞者には、実行委員会より賞状と副賞を贈呈いたします。また受賞者による該当テーマに関する学会誌論文投稿優遇措置(※)を設けておりますので、研究成果の投稿をぜひお願いいたします。

■若手優秀発表賞 受賞者

【口頭発表部門 (発表番号順)】

- ・ 1-11 黒沢 康太 (秋田県農林水産部森林整備課)
「地すべり施設点検に資する台帳の作成と地すべり防止工事の事業費予測」
- ・ S-9 小野 義紘 (株式会社アールデ)
「熱水変質帯における崩壊機構と酸性湧水の影響」
- ・ 2-13 山口 裕二 (日本工営株式会社)
「CIM を用いた地すべり対策工自動設計システム開発と業務事例紹介」
- ・ 2-19 木本 雄策 (群馬大学)
「地形解析と地震応答解析に基づく AHP 法を用いた斜面リスク評価の試み ―平成 28 年熊本地震を題材に」
- ・ 2-23 Binh T. NGUYEN (日本工営株式会社)
「地すべりに作用する水平震度力の検討」
- ・ 2-26 岡安 祥克 (群馬大学)
「バランス断面法の考え方を取り入れた弾塑性有限要素法による岩盤斜面の地形変動解析」
- ・ 2-29 遠藤 秀祐 (東電設計株式会社)
「相模原土砂災害における二次崩壊発生時の地点別到達危険度評価」

【ポスター発表部門（発表番号順）】

- ・P-3 今江 健太（国立研究開発法人土木研究所）
「BIM/CIM を活用した応急横ボーリング工の配置計画手法について」

- ・P-14 植田 允教（大阪公立大学）
「航空レーザ測量データを用いた斜面崩壊による地形分類の変化」

- ・P-16 松浦 弘明（国立研究開発法人土木研究所）
「三次元 FEM を用いた単純な地すべりモデルにおける変位量分布の検討」

- ・P-19 須藤 皓介（群馬大学）
「豪雨時崩壊の早期警戒システム検討のための実斜面モニタリング事例」

■審査方法

【口頭発表部門】

候補者 31 名に対して、事前審査と当日審査を行った。事前審査は、候補者 1 名あたり 3 名の審査員により、講演要旨に対して 3 つの項目（研究内容、研究レベル、原稿の完成度）について 5 段階評価で採点した。当日審査は、候補者 1 名あたり 2 名の審査員により、発表のわかりやすさ、質問に対する回答の的確さ、研究に関する理解度・貢献度などについて評価を行った。

事前・当日審査の総評をもとに、実行委員長・事業計画部が表彰者を決定した。結果的に、合計得点上位の 7 名を表彰者とした。

【ポスター発表部門】

候補者 15 名に対して、事前審査と当日審査を行った。事前審査は、候補者 1 名あたり 3 名の審査員により、講演要旨に対して 3 つの項目（研究内容、研究レベル、原稿の完成度）について 5 段階評価で採点した。当日審査は、候補者 1 名あたり 2 名の審査員により、研究内容、ポスターの出来栄、発表態度などについて評価を行った。

事前・当日審査の総評をもとに、実行委員長・事業計画部が表彰者を決定した。結果的に、合計得点上位の 4 名を表彰者とした。

なお、本表彰は、ポスター部門、口頭部門それぞれ複数回の表彰を行わないこととしている。

■審査員（順不同・敬称略）

・第61回研究発表会および現地見学会実行委員会・口頭発表副座長

中村 真也、木村 匠、香月 裕宣、肥山 浩樹、松本 敏、田口 修、溝口 健、中山 義章、梶山 宏、高木 辰治、鳥井 幹郎、近藤 剛史、黒木 久達、本田 信孝、上妻 良昌、我那覇 忠男、川満 一史、井上 英将、野田 翔兵、八木 里彩

・事業計画部・口頭発表座長

佐藤 剛、宇次原 雅之、茂木 俊、土志田 正二、稲葉 一成、井上 宏、岩佐 卓実、大村 泰、奥山 悠木、丹野 正浩、楠本 岳志、久米田 大樹、小林 豊、佐藤 威臣、相楽 渉、沼宮内 信、村上 亘、中村 直登、酒井 直樹、竹下 航、林 一成、土井 一生、佐藤 浩、古谷 元、梅村 順

※学会誌論文投稿優遇措置

受賞者が筆頭筆者として、受賞した発表に関連する内容の原稿（原稿区分は問わない）を日本地すべり学会誌に投稿する場合、その費用が免除される（ただし、カラーページ費用、超過ページ費用、別刷費用は免除対象に含まない）。優遇措置を受けられる期間は受賞から3年間である。受賞者にはこれを機に研究成果の投稿をお願いしたい。